

今後の望ましい県立高校の教育の在り方について（答申）概要(1)

令和8年3月〇日
県立高校の将来ビジョン検討委員会

【本県教育の基本目標・具体的人間像】

「夢や希望を実現し ともに未来を創る鹿児島の人づくり
～誰もが幸せや豊かさを感じられる地域や社会を目指して～」

- 1 知・徳・体の調和がとれ、主体的に考え行動する力を備え、未来の社会の創り手となる人間
- 2 伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛する態度を養い、互いに認め、高め合い、生涯を通じて幸せや生きがいを感じながら意欲的に自己実現を目指す人間

【背景・目的】

- 入学動機や進路希望、興味・関心、生活環境等の多様化
- 不登校生徒の増加等に伴う学びの多様化学校や通信制へのニーズの高まり
- 県立高校61校中34校が1学年3学級以下の小規模校
- 中学校等卒業生数の減少（R7.3：15,124人→R16.3：12,588人、▲2,536人）
→ 生徒の多様な学びのニーズや生徒数減少に対応するため、今後の望ましい県立高校の教育の在り方について検討

魅力ある県立高校 … 学びたい学びがある高校、充実した(楽しい)学校生活を送れる高校、進路目標を達成できる高校

令和22年（2040年）を見据えた取組の方向性

1 生徒が行きたいと思える県立高校づくり、特色化・魅力化

- ①生徒の進路目標達成を支える学習内容の充実と多様な活躍機会の確保
- ②高校教育の普及及び教育機会均等の観点から、各地域の実情に応じた柔軟な対応
- ③自治体や産業界、小中学校や大学等との連携・協働による多様な学びの在り方を検討
- ④スクール・ミッションやスクール・ポリシーの検証。中学生のニーズや高校での教育活動を体系的に検証
- ⑤生徒主体によるSNS等を活用した高校の特色や魅力の発信
- ⑥校務DX等による教員の業務改善と教育資源の効果的活用による教育の充実

2 生徒の多様な学びのニーズへの対応

【全日制・定時制における学びの充実】

- ①不登校生徒の実情を踏まえた遠隔授業・通信教育の適切な実施
- ②遠隔授業の環境整備、通信教育やICTを活用した生徒間交流などの支援体制充実に向けた研究

【通信制における学びの充実】

- ①通信制は多様な学びの選択肢として、教育内容の更なる充実、出口保障を検討
- ②通信制生徒の支援体制整備の研究、公立通信制高校の機能強化方策の検討

【多様な学習機会の確保】

- ①単位制、昼間部定時制、全日制・定時制・通信制を行き来できるフレキシブルな形の高校など、多様な学びの選択肢に関する研究
- ②全日制・定時制・通信制横並びとなり、多様な選択肢を整備し、個に応じた学びを継続
- ③生徒の背景や特性を把握、個に応じたアセスメント体制整備及び教職員の適正な対応
- ④開陽高校通信制における入学希望者は、今後も可能な限り受入れ

【学びの多様化学校】

- ①生徒のニーズや先進的取組みを踏まえ、学びの多様化学校について研究

3 全ての生徒の学びの充実

【普通科における学びの充実】

- ①AI・データサイエンス、学際領域や地域社会などに関する新学科設置等の検討
- ②多様な主体との連携・協働による普通科の多様化と特色化
- ③探究・文理横断・実践的な学び及び教科横断的な学びの推進

【専門学科の学びの充実】

- ①産業界等との連携強化による社会変化への対応、地域貢献に資する人材育成
- ②外部専門人材を活用し、生徒と企業が協働する学びを推進
- ③教育環境整備、学校間連携・遠隔授業による専門性深化、進学希望者への支援体制の充実
- ④生徒の地元定着を図るため、地域の特色を生かした専門学科の整備

【総合学科における学びの充実】

- ①外部専門人材等との連携、遠隔授業活用等による専門性深化、進学希望者への支援体制の充実
- ②学校間連携の円滑化に向けて、単位制への改編も検討
- ③多様な学びの選択肢や進路選択、総合学科の魅力に関するより一層の周知・広報

【各科共通】

- ①主権者として主体的に参画し、民主的で持続可能な社会の創り手となる資質・能力育成
- ②探究テーマや成果等の交流ができるプラットフォームの構築を検討
- ③アントレプレナーシップ教育を通じて、地域課題の解決に資する学びを推進
- ④国際理解教育の充実に向けて、グローバル人材育成拠点校の整備等を研究
- ⑤SNS・AI時代に対応したメディアリテラシーと情報活用力の育成及び教員の指導力向上
- ⑥特別支援教育に関する校内支援体制の充実、通級による指導の実施、特別支援教育支援員の配置拡充など体制づくりの推進
- ⑦外国につながる生徒への日本語指導及び実態に応じた包括的支援の在り方の検討
- ⑧外部機関等との連携・協働を円滑に進めるため、コーディネーター配置を検討
- ⑨単位制高校のニーズや先進事例等を調査し、必要に応じて単位制への改編を検討
- ⑩中学生等が高校での学びを理解できるよう、情報発信の充実

今後の望ましい県立高校の教育の在り方について（答申）概要(2)

令和8年3月〇日
県立高校の将来ビジョン検討委員会

【本県教育の基本目標・具体的人間像】

「夢や希望を実現し ともに未来を創る鹿児島の人づくり
～誰もが幸せや豊かさを感じられる地域や社会を目指して～」

- 1 知・徳・体の調和がとれ、主体的に考え行動する力を備え、未来の社会の創り手となる人間
- 2 伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛する態度を養い、互いに認め、高め合い、生涯を通じて幸せや生きがいを感じながら意欲的に自己実現を目指す人間

【背景・目的】

- 入学動機や進路希望、興味・関心、生活環境等の多様化
- 不登校生徒の増加等に伴う学びの多様化学校や通信制へのニーズの高まり
- 県立高校61校中34校が1学年3学級以下の小規模校
- 中学校等卒業生数の減少（R7.3：15,124人→R16.3：12,588人、▲2,536人）
→ 生徒の多様な学びのニーズや生徒数減少に対応するため、今後の望ましい県立高校の教育の在り方について検討

魅力ある県立高校 … 学びたい学びがある高校、充実した(楽しい)学校生活を送れる高校、進路目標を達成できる高校

令和22年（2040年）を見据えた取組の方向性

4 生徒数減少への対応

【通学区域】

- ①一部高校へ生徒が集中する懸念、学びのセーフティネットとしての役割を踏まえ、現行の通学区域制度の維持が適当
- ②在籍者数が定員を大きく下回る普通科は、学校・地域の実情を考慮し、通学区域の制限撤廃を検討

【学校の配置】

- ①高校教育の普及及び教育機会均等の観点から、全ての生徒が安心して学べる教育環境を確保
- ②各地域の核となる公立高校を確保、市町村ごとのバランスも考慮し配置を検討
- ③地理的条件や通学利便性、小規模校の状況を踏まえ、配置や規模は慎重に判断
- ④多様な学習ニーズや高校卒業後の進路状況など、学校の実態を丁寧に分析
- ⑤通学手段・寮の受入れ体制、共通して育成すべき資質・能力を意識した配置計画
- ⑥地域・学科の実情を踏まえた再編整備を行い、教育の質向上、学びの深化、支援体制の充実
- ⑦再編整備に当たっては、透明性を確保し、地域と十分対話した上で施策を検討
- ⑧単位制、昼間部定時制、全日制・定時制・通信制を行き来できるフレキシブルな形の高校など、多様な選択肢の研究
- ⑨開陽高校通信制の協力校は、状況を踏まえた対応、通信制・定時制の併置も検討

【学科の配置】

《普通科》

- ③中学生の進路希望、高校卒業後の進路状況を踏まえ、各学区に適切に配置。「新しい普通科」は、教育内容や外部機関との連携状況、配置バランス等を考慮して設置を検討

《専門学科》

- ⑨中学生の進路希望、高校卒業後の進路状況、地域産業の状況や産業構造の変化等を総合的に勘案して適切に配置。産業界等と連携した学校設定教科・科目の開設や学科再編を検討
- ⑩農業高校の魅力向上に向けて、農業大学校等との連携強化などの新たな取組を検討

《総合学科》

- ①設置校の状況、中学生の進路希望等を踏まえ、学科本来の趣旨や専門性の深化を検討

【学校の規模】

- ①教育条件改善の視点から、集団で多様な考えに触れ切磋琢磨し資質・能力を育むため、一定規模の生徒集団の確保
- ②「望ましい規模」という基準を持ちつつ、柔軟に検討
- ③再編整備に当たっては、十分な生徒・教職員数を維持し、特色ある教育活動を推進
- ④志願状況を踏まえ、教育の質の向上や地域バランスを総合的に考慮して検討

【小規模校の教育条件の改善】

- ①遠隔授業・学校間連携や外部専門人材登用など、新たな発想による教育条件の整備
- ②離島以外の高校への遠隔授業配信、学校間交流が可能な仕組みの整備
- ③大学・産業界との連携による新しい教育手法を実践・検証する実証校の設置を検討

【通学支援、寮など】

- ①通学手段の確保に向けて、具体的な解決策を検討
- ②通学の利便性や安全性への配慮、保護者負担への配慮、寮費支援の検討
- ③学びの環境の充実にあたっては、財政条件も踏まえた実効性のある方策を検討

5 高校振興の進め方

- ①本答申を踏まえ、県教委は、将来を見据えたビジョンを速やかに策定
- ②2040年（令和22年）を見据えた長期的視点の下、国の法改正やグランドデザイン等を踏まえ、中期・短期の時間軸を提示
- ③中高生・保護者・教育関係者などを対象に、学びのニーズ調査を実施し、策定するビジョンに反映
- ④高等学校の配置・規模、設置学科等の検討にあたっては、画一的な対応ではなく、地域と十分に協議を重ねた上で判断
- ⑤技術革新に対応するため、学校と産業界との連携を一層強化し、実践的教育の体制を整備
- ⑥生徒数減少や社会の変化を踏まえ、これまで以上にスピード感をもった対応が必要
- ⑦「学びのユニバーサルデザイン」の理念を取り入れ、全ての生徒が質の高い学習機会を確保できる教育環境を整備
- ⑧県教委は、全ての子どもが安心して学べる環境を実現するため、策定したビジョンに基づく継続的かつ具体的な取組を推進